社会科学を学ぶ

執筆者代表
伊藤正己・大石泰彦・武者小路公秀

有斐閣選書

社会科学を学ぶ　〈有斐閣選書〉

昭和45年5月25日　初版第1刷印刷
昭和45年5月30日　初版第1刷発行

¥580.

執筆者代表　伊藤正己
大石泰彦
武者小路公秀

発行者　江草忠允

発行所　株式会社有斐閣
東京都千代田区神田神保町2～17
電話　東京（264）1311（大代表）
郵便番号〔101〕振替口座　東京370番
本郷支店〔113〕文京区東京大学正門前
京都支店〔606〕左京区北白川追分町1

印刷　堀内印刷・製本　和田製本

© 1970, 伊藤正己・大石泰彦・武者小路公秀ほか.
落丁・乱丁本はお取替えいたします。

1330-080090-8611

▼この本を読まれる方々へ▲

大学時代は、学生生活の最後の期間に当たります。長い学習過程の大切なしめくくりに相当する時期です。この時代はまた、感動と不安の交差する青春の時でもあります。はじめて大学のキャンパスに身を置いたときの新鮮なイメージがようやく薄れるころ、いかにも茫漠として、つかみどころのない風貌の大学は、学生諸君に新しい不安をもって迫ってくるようです。

それは高校時代とは異質の授業システムに原因を求めることができるように思われます。みなさんは大学という外海に乗り入れたヨットの船長（キャプテン）のようなもので、先生や先輩の助言があったにしても、自分の判断で舵（かじ）を取らなければなりません。自分の将来に重大な影響を及ぼす講義の選択や進学コースの決定をしなくてはなりません。その際に、これまで経験したことのない不安を感じない人はいないでしょう。いわば「広場の孤独」的感情を味わいながら、だれもが《教えられる》生徒から、自から《学びとる》学生、自立した「個」としての大学生に成長していきます。

ところで、大学の教育システムは、社会科学・人文科学・自然科学の三つの系統に大きく分けることができます。この三つの系にしたがって数多くの講座・講義が配置され、法学・政治学・経済学・経営学などを学ぶ人びとは、社会科学系を中心とする講義を聴くことになります。

この本は、法学部や経済学部を中心とする社会科学系の学生のみなさんや、社会科学に属する学問について知りたいと考えている人文・自然科学系の学生諸君のために、その全体像と個別の学問の特徴を興味深く理解していただくよう編集されました。情報化社会と呼ばれる現代を、これらの学問がどのようにとらえるのか、また社会科学の分野ではどのような新しい動きがあるのかについて、すぐれた知識を随所で発見することができるでしょう。その意味でこの本は、大学という海洋を正しく航海できるよう工夫された学生諸君のための羅針盤といえます。新しいスタイルの社会科学の入門書としてお読みいただければ幸いです。

目次

序

▼大学・学問・教育〔伊藤正己〕……1
激動する現代の大学　大学の大衆化　学問の本質　研究と教育の遊離　学問の社会的有用性

1　政治学を学ぶ

▼民主主義の形骸化と政治意識〔内田　満〕……20
——理論と現実のギャップ——
マス・デモクラシーの条件　ポリティカル・マンの現代像　政治行動の非合理性　争点の多元化と専門化　政治過程の変貌　ゆらぐ議会政治

▼国際体系下の日米関係〔武者小路公秀〕……36

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

日米共同コミュニケから何を学ぶか　国際コミュニケーションと交渉過程　外交関係における非合理性と合理性　国家間関係と国際システム

2　法学を学ぶ

▼国家権力と基本的人権〔石井紫郎〕……62
基本的人権とは何か　基本的人権と公共の福祉との緊張関係　報道の自由と公正な裁判　プロフェッショナルの特権に内在するもの

▼企業活動と市民生活の調和〔野村好弘〕……83
公害と漁業補償　被害者の救済方法　損害賠償を請求できる場合　損害賠償の請求権者と配分　損害賠償額の算定　漁業に関する損失補償基準との関係

3　経済学を学ぶ

▼価格形成のメカニズム〔矢島鈞次〕……110
大型合併の論理と倫理　完全自由市場の理論　不完全市場での価格メカニズム　フル・コスト原則と損益分岐点論　価格形成のメカニズム高度化の理論

▼経済成長力を考える〔荒　憲治郎〕……132
——高度成長を可能にするものは何か——
アメリカに追付く日本経済　国内均衡の下での成長率決定因　輸出増加率と重化学工業化政策　高度成長の歪み

4　商業学を学ぶ

▼高度産業社会における流通革命〔佐藤　肇〕……164
ショッピング・センターの登場　百貨店と通信販売　チェーン・ストア経営　低価格販売とクレジット販売　マーケティングと現代商業

5　経営学を学ぶ

▼企業行動と社会変化〔土屋守章〕……192
企業は大学問題と無縁か　企業活動の社会的影響　企業行動の決定要因　組織体としての企業　経営管理の諸手法

6　社会学を学ぶ

▼集団への帰属と生きがい〔浜島　朗〕……218
なぜ集団に所属するのか　集団の解体と再編　産業化と都市化の流れのなかで　「家」の崩壊と核家族化　家庭と職場のあいだ　組織のなかの人間

▼情報化と管理社会〔中野　収〕……240
アポロの意味するもの　システム工学から社会工学へ　情報化の方向　アポロとコンピュータ　社会工学的発想と管理社会　情報化と管理社会

7　心理学を学ぶ

▼投票行動の心理学〔飽戸　弘〕……270
選挙戦のタテマエとホンネ　有権者の側のタテマエとホンネ
投票行動と政党支持　政党支持の変化と社会的要因　政治不信と政治的無関心の増大

8　教育学を学ぶ

▼教育評価と人間形成〔柴田義松〕……292
通信簿論争とは　集団の教育力　相対評価と絶対評価　子どもの発達と教育との相互関係　問題解決学習から系統学習へ

9　文化人類学を学ぶ

▼社会変動と言語コミュニケーション〔蒲生正男〕……316
異文化がすぐそばにある　若者と大人との間　西欧の論理をすてて　フィールド・ワーク　構造分析　比較分析　共通の人間性を求めて

10　歴史学を学ぶ

▼歴史と現代〔山田昭次〕……334
戦後の日本人の歴史意識とアジア　加害者意識の欠如　巻き
こまれ論の発生　日本人の世界史像　ひとりひとりが歴史家
でなければならない

◆講座の案内

▼政治学〔内田　満〕……54
政治学とは　教養政治学　政治理論　政治史　政治制度
国際政治　将来の方向

▼法学教育〔石井紫郎〕……99
法学とは　社会科学と法学　教養課程の法学　実定法学
基礎法学

▼近代経済学〔大石泰彦〕……149

二つの経済学　実学中の実学　重要な統計学　計量経済学の必要性

▼マルクス経済学〔桜井　毅〕……156
マルクス主義とマルクス経済学　経済学の任務　マルクス経済学の基礎

▼商業学〔佐藤　肇〕……181
マーケティング論と商業学　経済学と商業学　商業学と経営学　商業学の課題

▼経営学〔土屋守章〕……208
経営学教育の狙い　経営学の内容　インターディシプリナリーな勉強の必要性

▼社会学〔浜島　朗〕……261
社会学とは　社会学教育の過去と現状　現代社会学の動向　問題点と展望

▼教育学〔柴田義松〕……309
哲学から科学へ　教育学の対象　教育学の諸分野

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

◆新しい学問の動き

◆新しい講義システムの試み〔河原　宏〕……17
◆遅れた政治学——計量政治学の課題〔小室直樹〕……34
◆都市問題と都市学〔柴田徳衛〕……81
◆社会とシステム——社会工学について〔阿部　統〕……107
◆統計数字の理解〔森田優三〕……130
◆会計学とコンピュータ〔津曲直躬〕……187
◆フィールド・ワークと理論化〔安田三郎〕……214
◆技術進歩と社会工学〔林雄二郎〕……238
◆情報社会の出現〔藤竹　暁〕……267
◆行動科学とは何か〔田中靖政〕……289
◆未来学のめざすもの〔香山健一〕……331

◆〈社会科学を学ぶ〉一〇の助言〔内田　満〕

乱読と精読――読書のストラテジー(1)(16)　辞典・事典に親しむ(60)
図書館の利用法(80)　助言者を求めよ(148)　情報化時代の資料収集――
読書のストラテジー(2)(207)　論文・レポートを書くとき(213)　原稿用紙
の使い方・誤字をなくそう(216)　ノートのとり方――カードのすすめ(288)
外国語の効用(308)　新聞の活用(349)

序 大学・学問・教育

伊藤正己

1　激動する現代の大学

昭和四三年に医学部の問題に端を発した東大の混乱は、全学的な長期のストライキ、入学試験の中止などの事態を招きました。安田講堂の封鎖解除のときには、テレビによってその状況が全国のすみずみまで報道され、多くの国民の注目を浴びたことは記憶に新たなところです。このような学園の混乱は、東大のみにとどまらず、その原因となった具体的な争点は一様ではありませんが、国立・公立・私立の別をとわず、きわめて多くの大学が混乱の渦中にまきこまれました。多くの混乱は機動隊の導入のような手段で、ともかく表面上は収拾されたようにみえますが、学園が学問の場としての正常な状態を完全に回復したとはいえないでしょう。

このような苦い経験は、私たちに何を残したでしょうか。一方では、審議ぬきの強行採決という異常なやり方で大学運営臨時措置法が成立しました。大学問題が政治の問題となった以上やむをえないことですが、大学の自治にかかわる法律が政争の焦点となって生まれたことは残念に思われます。他方では、多くの学生の進学や卒業がおくれたり、大学の施設が破壊されたり、教師と学生や学生相互の間の断絶感も生まれ、物的にも精神的にも学園が荒廃したことも否定できません。しかし、大学の混乱がこのような暗い面のみを残しただけとすれば、私たちは余りにも高価な代償を支払ったことになります。そこから、何か将来にむかって積極的な意味をもつものがひきだしえないのでしょうか。

それをたんに政治的な運動の一環としてとらえるのでなく、わが国の大学の歴史のための有益な一頁としたいものです。

このような考え方にたつと、そこで問われた真の問題は、古い大学、古い教育、古い学問のそれぞれのあり方に対する反省であったといえます。もとより古いものが必ずしも悪いとはいえません。最近の風潮のなかで、ただ古いというだけで、浴湯とともに赤ん坊をも流してしまうような愚をおかす傾きがあるのは遺憾なことです。しかし、大学がそのあり方においても、その研究と教育という活動においても、伝統のなかに安住し、それに自律的なきびしい反省を加えるのを怠ってきたこともたしかです。戦後のわが国でほとんどの制度が変革をうけたのに、大学は古い制度を維持しましたし、新制大学の発足も古い大学の延長と拡散にすぎませんでした。このことは、大学というものが、本質上社会的変動から隔離される度合が大きいことや、わが国のそれまでの大学が、先人たちの努力によって、一般的にいって民主制のもとでも継続できる組織であったことにもよりましょう。しかし、あまりにも過去の成果を容易に肯定したところに、新しい社会的要求に適応できないよどみを生じ、混乱を生みだす原因があったと思われます。

このような大学問題が、その原因や形態は異なっても、日本のみならず、先進諸国の至るところで生じていることも注目されます。そこから、現代の大学の問題が、それぞれの国の固有の意味をもつとともに、世界史的な意味をもつといえましょう。このような大学の激動期において、これからの大学・学問・教育がどうあるべきかを考えてみることは、教師も学生も含めて、すべての大学人の責

任といってよいでしょう。

2　大学の本質

大学が学問の研究・教育の場であることは、その本質として古今東西を通じて変りはないでしょう。しかし、それが具体的にどのような形をとるか、またどのような役割を果たしてきたかは、時代により、国によって一様ではありません。ここでは、わが国の大学について考えてみましょう。

日本で近代的な大学が生まれたのは、明治一〇年の東京大学の設立といえますが、それは明治一九年に帝国大学になりました。この時の帝国大学令第一条は、「帝国大学ハ国家ノ須要ニ応スル学術技芸ヲ教授シ及其蘊奥ヲ攷究スルヲ以テ目的トス」と定めております。その後大正七年に大学令が制定され、従来の帝国大学のほかに、新たに官立・公立・私立の大学が認められるようになりましたが、その第一条でも、「大学ハ国家ニ須要ナル学術ノ理論及応用ヲ教授シ竝其ノ蘊奥ヲ攷究スルヲ以テ目的トシ兼テ人格ノ陶冶国家思想ノ涵養ニ留意スヘキモノトス」と規定されています。ここでは、国家に役立つ学問ということが強調されていることがめだちます。おそらくは、近代の日本が急速に欧米先進諸国においつくために学問を発展させることが必要であり、このような近代国家の生成のために大学に期待するところが大きかったのでしょう。そしてまた、大学も意欲的に欧米の学問をとりいれ、それを研究・教育に反映させて、国家の発展に寄与したといってよいでしょう。

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com